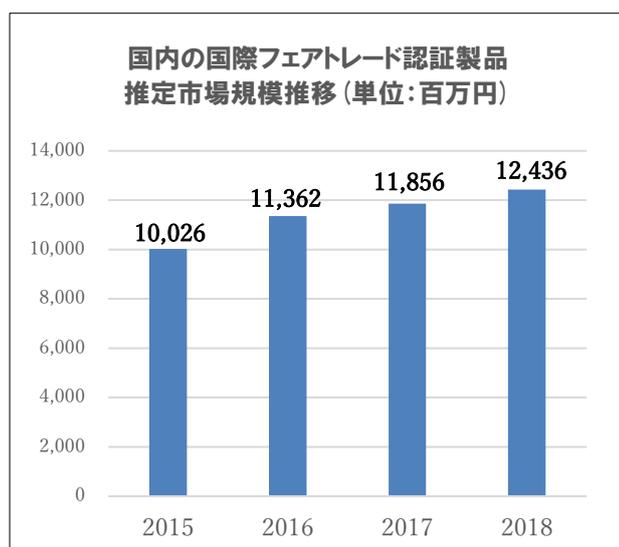


2018 年度 事業報告書

フェアトレード・ラベル・ジャパン (FLJ) 創設から 25 周年目を迎えた本年度、国内におけるフェアトレードの認知向上と、認証製品の市場拡大にあたり、引き続き「企業」「市民」「教育」「行政」といった四つの分野・領域に対して普及活動に取り組んだ。また、継続課題である組織基盤強化では、社会から、より信頼・支持される組織運営を目指すため、2015 年度から目指して取り組んできた認定 NPO 法人化に対し、応援して下さる多くの支援者の方々の支えを受け、東京都から認定を受けることができた。今後も、日本での飛躍的なフェアトレード認証製品市場拡大に向け、引き続きステークホルダーとの連携を通じ、取組みを強化していく。

1. フェアトレード認証製品市場

2018 年(1 月～12 月)国内の国際フェアトレード認証製品市場規模は推定で 124 億 3600 万円 (対前年比 105%)。社内勉強会の実施や企業間連携の促進を積極的に展開した結果、新規認証取得事業者の増加と市場拡大に繋がった。主要製品のコーヒーでの広がりが堅調であることと、数年前からの傾向として、繊維 (コットン) 業界からの新規参入企業も引き続き増えている。



2018 年度 新規認証取得実績	組織数	製品数
コーヒー	5	38
紅茶	1	5
カカオ	1	1
サトウキビ糖	—	9
加工果物・野菜	1	2
オイルシード・油脂果実	2	2
スパイス・ハーブ、ハーブティー	1	—
繊維	3	37
スポーツボール	—	1
合計	9 (※1)	95

<フェアトレード認証参加組織数 (※2)>

2019 年 3 月 31 日現在： 合計 212 (前年度対比 111%)

(※1) 1 社で 6 製品の認証を取得した組織があったため、新規認証取得組織数としては 9

(※2) FLJ 認証組織 (輸入、製造、卸、ライセンサー)、FLOCERT 認証組織、製造受託組織、海外完成品輸入組織等

2. 普及啓発事業

<企業>

ステークホルダーとのコミュニケーション促進・ネットワーク構築

フェアトレードへの理解を深め、国際フェアトレード認証のしくみや基準、そのインパクト、企業や団体が積極的にフェアトレードへ取り組む意義などを伝えるため、年間を通じて企業でのフェアトレード勉強会やビジネスセミナーなどを実施。その結果、フェアトレード認証製品の販売促進等に繋がっている。

● デロイト トーマツ コンサルティング「ソーシャル・イノベーション・パイオニア」プログラム支援
本プログラムは、SDGsに関連する特定の課題分野において、高いビジョンを掲げ、革新的な取り組みを行っている非営利団体に対して、デロイト社が通常のビジネスと同等の品質とコミットメントを持って専属チームによるコンサルティングを無償で提供するもの。FLJ は本年度のパイオニア団体に出選され、デロイト社の支援を受け、市場拡大および組織運営改善に向けた分析および施策に取り組んだ。FLJ 組織内の意思決定プロセスや業務の見直しを図り、認証業務・広報業務などにおいて業務効率化が実現した。また、政府内におけるフェアトレードへの理解促進と今後の連携を目指し、省庁とのネットワーキングにも着手することができた。

社会へのインパクトを最大化させるべく、3 か月間のプログラム終了以降もデロイト社とは連携を継続し、FLJ およびフェアトレード市場の成長加速に取り組んでいく。

● 第 11 回ステークホルダー会合開催 (7 月 18 日)

国際フェアトレード認証製品取扱い企業・団体や認証参加を検討中の方々が一堂に会する場として、2007 年から継続して年に一度開催している「ステークホルダー会合」。第 11 回目となる今回は、56 社、106 名が参加。会場提供や会合運営等において、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社様のご協力をいただき開催。同社執行役員 レギュラトリストラテジー リーダーの羽生田 慶介氏による「SDGs ビジネスの可能性とルール形成」と題した講演では、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) がビジネスにもたらす経済的インパクトなどについてご講演いただいた。また、企業事例発表として、豊田通商株式会社アパレル事業部の高橋 渚氏から、同社および豊田通商グループのフェアトレード認証への取り組みと今後の展望についてご発表いただいた。



後半の参加企業間でのディスカッションタイムと名刺交換会では、活発な情報交換が行われ、「他社の取り組みを聞いて参考になった」「今後、企業間連携でフェアトレード普及に取り組みたい」といった前向きな意見が多数聞かれた。

● 企業間連携の促進

CSR の一環で、社内で消費する飲料や製品をフェアトレード認証に切り替える動きをさらに広げていくため、すでに取り組みを強化している企業各社との連携促進を強化。結果、新たな大手企業でのフェアトレード認証製品の採用が加速している。

● 創立 25 周年企画交流会 (11 月 6 日)

創立 25 周年記念日に、FLJ 創設者と Fairtrade International 幹部を迎え、ラベルのしくみができた背景やそこに込められた想いを振り返るとともに、現在では世界 150 カ国に広がるフェアトレード認証ラベルの最新の活動とサステナビリティ実現に向けたチャレンジについて、フェアトレードに賛同いただく企業や支援者と共有する場として交流会を開催した。



● ビジネスセミナー「国際フェアトレード認証セミナー」開催（計3回開催：1/23、2/8、2/15）
東京2020大会組織委員会による「持続可能性に配慮した農産物の調達基準」を満たすものとして国際フェアトレード認証が承認されたことを受け、認証取得済みおよび認証検討中の事業者を対象に、なぜ国際フェアトレード認証が東京2020の調達基準に承認されたのか、認証のしくみや意義、SDGsやESG投資との関連性、ビジネスへの展開やプロモーションなどについてのセミナーを開催。各回満員の参加者同士で活発な情報交換とネットワーキングが行われた。

● 生産者との連携強化

国内企業とフェアトレードへ参加する生産者との橋渡し役を果たすため、生産者ネットワーク組織との連携を強化。9月26日～28日に開催されたアジア最大のスペシャルティコーヒーの展示会「SCAJ2018」にFLJとして初出展し、カップリングや試飲提供、セミナーを通じて、認証コーヒーの高品質のPRを図った。生産者は日本市場の特性やニーズへの理解を深めることができ、今後はビジネスへの展開が期待される。



● セミナー・シンポジウム等での講演（以下、主な講演実績）

- ・日本サステイナブルコーヒー協会主催「今後のサステイナブルコーヒーの行方」(4/14)
- ・エシカルコンシェルジュ講座(4/28、10/13)
- ・カフェ・喫茶ショー2018(6/15)
- ・日本エシカル推進協議会主催「エシカルサミット2018」(7/4)
- ・一般社団法人 WHAIS 総会「小さなアクションが世界を変える“フェアトレード”」(7/20)
- ・CSR&コンプライアンス研究フォーラムセミナー(8月30日)

<市民>

自主事業のみならず、理念を共有する団体や学生グループとの連携等を通じ、フェアトレードへの理解促進ならびに、フェアトレード認証製品の積極的な選択を呼びかけた。

● サポーター感謝祭開催(5月26日)

日頃FLJを応援して下さるサポーターの皆さまに向けた感謝祭イベントをコニカミノルタジャパン株式会社様のご協力のもと、同社のセミナールームにて実施。FLJからの活動報告や国内外のフェアトレード最新動向・認証関連の情報共有のほか、カードゲームの「SDGsゲーム」を参加者全員で体験した。このイベントをきっかけに、FLJへの理解を深め、より一層FLJを応援して下さるサポーターの方々が増え、ともにフェアトレードを広める仲間づくりの機会となっている。



●主な活動

- ・メディア取材対応（年間計 78 媒体： テレビ 3、ラジオ 2、新聞 5、雑誌 14、その他 54）
- ・雑誌等への寄稿
- ・セミナー・シンポジウム等での講演
- ・「フェアトレード月間」情報発信強化（5月）
- ・ウェブサイト、ソーシャルメディアを活用した情報発信
- ・ソーシャルグッドプラットフォーム gooddo への参加
- ・フェアトレード学生ネットワーク（FTSN）や学生サークルとの連携・協力

<教育>

小学校の副教材や中学校・高校の英語、社会科、家庭科等の教科書でのフェアトレード紹介および国際フェアトレード認証ラベル掲載への協力や、フェアトレード普及に積極的な学校との連携を深めていくことで、フェアトレード普及に向けたアクションの促進を図った。

- ・授業・講義・教材提供での協力：年間 80 件以上

<行政>

行政主導による消費者教育教材や消費者キャンペーン・イベントを通して、フェアトレードならびにフェアトレード認証ラベルの認知向上を図れるよう、協力・連携を図った。

- ・教材制作協力・イベント協力：年間 30 件以上
- ・「東海三県一市グリーン購入キャンペーン」への協賛（1/11-2/10）

<フェアトレードタウン関連への協力（講演、資料提供など）>

熊本市、名古屋市、逗子市、浜松市と日本で 4 都市がフェアトレードタウン認定を受けているが、それ以外にも全国各地でフェアトレードタウンを目指す動きが活発になってきている。フェアトレードタウン運動は、市民にフェアトレードへの参加を促す上で重要な役割を果たすものであり、FLJ としても、教材や広報物・情報提供のほか、行政によるフェアトレード調達の促進に向け、企業との橋渡しなど、地域の推進グループや教育機関・地方自治体との連携・協力を進めている。

3. ネットワーキング・連携活動

3-1 国内団体との連携・ネットワーク参加

- 一般社団法人 日本エシカル推進協議会 -会員
- 特定非営利活動法人国際協力 NGO センター (JANIC) -正会員
- 一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム (FTFJ) -正会員
- グリーン購入ネットワーク (GPN) -正会員・理事
- なんとかしなきゃ！プロジェクト -メンバー団体(2019年3月末プロジェクト終了)

3-2 Fairtrade International ネットワーク関係

- FI メンバー事務局長会議出席（6/11-13@コスタリカ、他 7・10・12・3 月オンライン会議）
- FI 年次総会出席（6/14-15@コスタリカ）

- FI コーヒーチーム (GPM) 会議出席 (6/18-19@オランダ)
- FI コーヒーチーム (GPM) ・生産者ネットワークとの連携：9月 SCAJ 生産者招聘、11月来日
- FI アジア太平洋メンバー会議出席 (3/20@韓国・ソウル)

4. 認証・ライセンス事業

4-1 フェアトレード認証・監査業務

79社の認証事業者を対象に計38件の監査を実施した。

<本年度の監査実施件数>

監査の種類	件数
初回監査	6
更新監査	22
中間監査 (※3)	9
非通知監査	1
合計	38

<認証判定結果>

監査の種類	件数
認証一時停止の警告 (※4)	1
認証一時停止	0
認証取得・更新・継続 (※5)	37

(※3) 中間監査には、実地で行う場合と書類で行う場合とがある。

(※4)「認証一時停止の警告」「認証一時停止」が出された認証事業者はその後は是正措置が確認され、認証が更新・継続された。

(※5) 2019年5月時点で是正期間中の事業者(1件)は含まれていない。

監査1件あたりの不適合数が2015年度1.9、2016年度1.3、2017年度0.97、2018年度0.73へと大きく減少している。また、不適合が確認されなかった認証事業者の割合も、2016年度39%から2017年度56%、2018年度58%へと大幅な増加がみられた。これらの数値変化により、国際フェアトレード基準への理解が深まり、基準に沿った管理方法が浸透してきたことが分かる。

なお、監査ではなく認証サイクルの中で不適合が発見され、認証を一時停止した件数が1件あった。

その他、認証関連では主に以下の取組みを行った。

- ・ 認証・ライセンス業務管理システム「Connect」の導入
- ・ 改定版RAPs(認証機関向け基準)に対応した監査・認証業務体制の構築

4-2 内部監査の実施(12月21日)

FLJの認証監査事業が、ISEAL(International Social and Environmental Accreditation and Labelling)が定めるAssurance Code(監査認証プロセスに関する基準)、ならびにISO17065(製品認証機関の認定)に従って、適切に運用されているか、内部監査を実施。監査から認証判定までの一連の業務が、適切に滞りなく行われていることが確認された。

5. FLJ組織運営

多くの人たちにフェアトレードを応援いただくためにも、より信頼・支持される組織を目指し、継続的に組織基盤強化に取り組んできた。認定NPO法人化を目指し、2015・2016・2017年度と支援者獲得に取り組

んできた結果、幅広い世代や職業の方々、累計 313 名からご支援をいただき、2018 年 6 月 7 日付けで東京都より「認定 NPO 法人」として正式に認められた。

また、働きやすい環境整備によるスタッフのワークモチベーション向上を目指し、前年度に続き、さらにテレワークの活用を広げた。

●FLJ 組織体制 (2019 年 3 月 31 日現在)

- ・正会員： 個人会員 18、団体会員 2
- ・支援者： サポーター74 名 (年度内寄付者数)
- ・役員： 理事 5 名、監事 2 名
- ・事務局： 常勤 4 名、非常勤 2 名、学生インターン 1 名

● 通常総会開催

日時：2018 年 6 月 9 日 (土) 10:45~12:30

場所：東京都中央区東日本橋 3-3-3 わなびば 333

議題：議決事項 (第 1 号議案) 2017 年度 決算報告書承認の件

(第 2 号議案) 2017 年度 事業報告書承認の件

報告事項 (1) 2018 年度予算

(2) 2018 年度事業計画

● 理事会運営

- ・第 1 回： 2018 年 12 月 6 日 (木) 15:00~18:00

2018 年度上半期レビュー・活動報告、下半期見込報告、中期ビジョン、寄付者獲得等

- ・第 2 回： 2019 年 3 月 2 日 (土) 13:00~17:00

2019 年度暫定予算承認、2019 年度総会アジェンダ、決裁規程承認など